

評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所名	24時間在宅所 新田の楽さん家		
所在地	防府市新田 966 - 1		
電話番号	0835-21-3463	事業所番号	3570600472
法人名	有限会社 楽さん家		

訪問調査日	平成 21 年 12 月 7 日	評価確定日	平成 22 年 3 月 24 日
評価機関の 名称及び所在地	特定非営利活動法人やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク 山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		

【情報提供票より】

(1)組織概要

開設年月日	平成 13 年 5 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員計	9 人
職員数	12 人	常勤 7 人 非常勤 5 人 (常勤換算 9.35 人)	

(2)建物概要

建物構造	木造(2×4工法)		造り
	1 階建ての	~	1 階部分

(3)利用料等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃	月額	31,000 円	敷金	無	円
保証金	有	200,000 円	償却の有無	有	
食費	朝食	300 円	昼食	500 円	
	夕食	500 円	おやつ		円
その他の費用	月額	12,400 円			
	内訳	光熱水費 6,200円 共益費 6,200円			

(4)利用者の概要 (12 月 7 日現在)

利用者数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
	要介護 1	0	要介護 4	3	
	要介護 2	1	要介護 5	3	
	要介護 3	2	要支援 2	0	
年齢	平均 85.4 歳	最低 67 歳	最高 98 歳		

(5)協力医療機関

協力医療 機関名	医科 新田木村診療所
	歯科 ホワイト歯科

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

(優れている点)	事業所の理念を全職員が理解し、共有して利用者の自分らしく生きる力を支えるため、一人ひとりに寄り添いながらのケアに努めておられます。重度化されている方の入浴は2人体制で、入浴をしたくない利用者には声かけやタイミングを工夫しておられます。利用者のその日の希望やペースを大切に日々穏やかに過ごされるように、朝食の時間、就寝の時間等や個別のレクリエーション、外出など利用者の思いを丸ごと受け入れて日々のケアをされています。
(特徴的な取組等)	医療連携により、週1回の往診や24時間対応システムを取り入れ、若年性認知症利用者の受け入れや看取り介護の実施など、利用者や家族の安心に繋がっておられます。隣接のスーパーの店長は運営推進会議のメンバーで避難場所の提供や備蓄等の支援などの協力体制が整っています。

【重点項目への取組状況】

(前回の評価結果に対するその後の取組状況)	地域密着型サービスとしての理念を全職員で検討し、従来の理念を基に地域や馴染みの関係を大切にしていることを確認し共有され、運営推進会議のメンバーに地域の方が増え6名となるなど改善に取り組んでおられます。
(今回の自己評価の取組状況)	全体ミーティング時に4時間以上の時間をかけて全職員で項目ごとに話し合い、主任がまとめたものを管理者が確認して、施設長が目を通した後に提出しておられます。職員は評価をプラスに捉えて、ケアに反映させるよう取り組まれています。
(運営推進会議の取組状況)	定期開催でメンバーは家族代表、自治会副会長、民生委員、地域住民(3人)、スーパー店長、市介護保健室職員、地域包括支援センター職員、事業所関係者で、利用者の生活状況、ケアについて、行事の予定や報告、事業所の説明、外部評価の結果報告等で意見交換をして、サービスに活かしておられます。
(家族との連携状況)	毎月発行のホーム便り、利用請求書、担当者の手紙、金銭出納明細書を送付しておられます。家族と一緒に食事会、地域の納涼祭にも家族が参加され、電話や来訪時に報告をしたり要望を聞いておられます。職員の異動はホーム便りや来訪時に報告しておられます。事業所の納涼祭に家族が参加して連携を深めておられます。
(地域との連携状況)	自治会に加入し、回覧板を利用者と一緒に持って行かれたり、地区の清掃に参加されています。託児所や保育所の子供たちと芋ほりなどで交流されています。地域の夏まつりに参加されたり、事業所の納涼祭に地域の方100人程度が参加されています。また、ホーム便りを事業所のある班やスーパー、保育所等20ヶ所に配布しておられます。

評価結果

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印・(取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営				
1. 理念の共有				
1 (1)	○ <u>地域密着型サービスとしての理念</u> 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	地域密着型サービスとして何が大切かを全職員で見直し検討して、事業所独自の理念をつくりあげている。		
2 (2)	○ <u>理念の共有と日々の取り組み</u> 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	玄関に掲示し、共有空間には全職員で書いた理念を掲示して、毎朝の申し送り時に確認し共有している。		
2. 地域との支えあい				
3 (7)	○ <u>地域とのつきあい</u> 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	自治会に加入し、回覧板を利用者と一緒に次の家まで持っていったり、地区の清掃に職員が参加している。ホーム便りを地区の20ヶ所に配布し、託児所、保育所の子供たちとの交流や隣接のスーパーとの協力体制もできている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
4 (9)	○ <u>評価の意義の理解と活用</u> 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	評価の意義を管理者が説明し、全職員が話し合って理念の見直しや運営推進会議のメンバーの拡大など、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。		
5 (10)	○ <u>運営推進会議を活かした取り組み</u> 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	定期的開催し、家族代表、地域住民(3人)、自治会副会長、スーパー店長、介護保健室職員、地域包括支援センター職員等で外部評価の報告、利用者の生活状況等の説明などで意見交換をしている。		
6 (11)	○ <u>市町との連携</u> 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	介護保健室、地域包括支援センターと運営推進会議以外にも相談、情報交換等で連携を取りサービスの質の向上に取り組んでいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践する為の体制			
7 (16)	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	毎月発行のホーム便り、利用請求書、金銭出納明細書、担当者の手紙等を送付し、電話や面会時に報告や要望を聞いている。職員の異動等についてはホーム便りや面会時に報告している。	
8 (18)	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	家族が面会に来られた時や食事会に参加された時などに意見等を聞くと共に、受付窓口、担当者、外部機関を明示し、苦情処理の手続きも明確に定めている。意見や思いを伝えられる機会のひとつの方法としての第三者委員は現在検討中である。	・第三者委員の選任 ○
9 (20)	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	常勤7名、非常勤5名で、3名体制8時間の勤務体制となっており、職員の希望を聞き、柔軟な対応が出来るよう職員を確保するための話し合いや勤務調整に努めている。	
10 (21)	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、変わる場合は利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	異動や離職を必要最小限に抑えるように努めている。変わる場合は、日勤は1ヶ月、夜勤は3回程度の重複期間をもうけて、利用者のダメージを防ぐ配慮をしている。	
5. 人材の育成と支援			
11 (22)	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	勤務の一環として段階的に外部研修受講の支援をし、職員は月1回の全体ミーティング時に復命をしている。また、事業所独自の勉強会や働きながらのトレーニングをしていくことに取り組んでいる。	
12 (24)	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	山口県宅老所・グループホーム連絡会の研修や交流会に職員は交代で参加している。ブロック研修会にも職員が交代で参加するなどの活動を通じて、サービスの質の向上に努めている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
13 (31)	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	利用前には家族と一緒に見学や自宅訪問をして顔馴染みになったり、病院や施設などにも訪問して馴染めるように工夫している。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
14 (32)	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	利用者の喜怒哀楽に関心を寄せながら一緒に過ごすことに努め、調理の仕方、野菜の切り方、畑作り、生活の知恵、習慣などを教えてもらったり、いたわってもらったり、感謝の言葉をかけ合うなど支えあう関係を築いている。	
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握			
15 (38)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者の言葉や言動から一人ひとりの思いや希望、意向の把握に努めるために、気づいた事はフェイスシートに記入して共有に努めると共に、困難な場合は、家族からの情報を参考に職員間で検討している。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
16 (41)	○チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	利用者、家族に要望を聞き、担当者が原案を作り、職員間で話し合った後に計画作成担当者が作成している。職員は活発に意見を出し、アイデアを反映した介護計画を作成している。	
17 (42)	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行なうとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	月に1回、本人の今の意向や状況を確認すると共に、担当者や他の職員の最新の情報や気づき、アイデアを集めて実情に即した、あるいは状況変化の兆しに対応していくため、現状に即した新たな介護計画を作成している。	
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
18 (44)	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	医療連携体制をとっており、往診の支援、美容院への送迎支援、特別な外出の支援(外食、自宅訪問、法事、墓参り、展覧会等)等、柔軟な支援をしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
19 (49)	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	利用者と家族の同意と納得のもと、協力医療機関がかかりつけ医となっており、週1回の往診、24時間対応で変化や健康面で心配事がある場合等に相談できる関係を築いている。受診結果に関する情報の共有ができています。	
20 (53)	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	終末に対する指針を作成し、家族、医師、事業所を交えて早い段階から話し合いを行っている。本人や家族の気持ちの変化に対しても話し合い、施設等への移行に対しても安心してサービス利用できるように支援方法を伝え、共に、全員で方針を共有している。	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
21 (56)	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	誘導の声かけ、入浴時、排泄時等、プライバシーを損ねないように管理者が指導している。個人情報保護方針を掲示し、理解に努め、記録類は事務室に保管している。接遇研修にも職員は参加している。	
22 (59)	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	その日その日の利用者の希望や体調の合わせて、散歩、起床、朝食の時間、就寝、入浴など利用者のペースにそって見守りの支援をしている。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
23 (61)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	月曜から土曜の昼食、夕食は食材配食会社からの献立で、シルバー人材センターの職員と一緒に調理をしている。日曜日は職員が利用者の好み等を聞いて献立を作成し、一緒に調理をして、同じ物を食べている。台拭き、後片付けを一緒にしながら和気あいあいと食事を楽しんでいる。	
24 (64)	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴時間は11時～19時で、午前中は職員2人体制で重度化の方の対応をしたり、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴の支援をすると共に、入浴を嫌がる場合には言葉かけや対応の工夫など、利用者を不安にしない支援をしている。シャワー浴、清拭、足浴等の対応もある。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
25 (66)	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	食事作り、畑作り、洗濯物干し、洗濯物たたみ、台拭き等の活躍できる場面づくりや散歩、買い物、読書、新聞読み、テレビ、DVD観賞、ラジオカセットでCDを聞くなどの楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	
26 (68)	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	一人ひとりの楽しみごとに合わせて、喫茶店、展覧会、散歩、保育所の訪問、外食、ドライブに行ったり、季節を肌で感じてもらうために初詣、四季の花見、肌坊祭りなど戸外に出かけられるように支援している。	
(4) 安心と安全を支える支援			
27 (74)	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が、「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	職員は身体拘束によって利用者が受ける弊害について理解しており、方針、マニュアルも作成している。その時その時のケアを振り返ったり、管理者の指導のもと抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	
28 (75)	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	利用者が外出しそうな様子を察知したら、気分転換の工夫やさりげなく声をかけ一緒にについて行くなどして、日中は玄関の鍵をかけずに自由な暮らしを支援している。	
29 (78)	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	ヒヤリ帳を記録し、職員の共有意識を図っている。月1回の全体ミーティング時に看護師の指導で転倒、意識不明などの勉強会をすると共に、マニュアルも作成している。	
30 (79)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	年1回、全職員は救急救命法を受講している。また、ミーティング時に緊急マニュアルを参考にして、看護師を中心に勉強会をしている。	
31 (81)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	風水害、地震等のマニュアル、災害対策マニュアル、避難訓練マニュアルを作成し、年2回(夜間想定訓練を含む)の避難訓練、通報訓練、消火器の使用訓練を実施している。隣接のスーパーと備蓄関係、避難場所として協力体制を話し合っている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
32 (84)	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。		
33 (86)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力量に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。		
34 (87)	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。		
35 (88)	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
36 (91)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。		
37 (93)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。		

自己評価書

【ホームの概要】

事業所名	認知症対応型共同生活介護24時間定老所新田の楽さん家
所在地	〒747-0825 山口県防府市新田 966番 1
電話番号	(0835) 21-3463
開設年月日	平成 13 年 5 月 1 日

【サービスの特徴】

＜楽さん家の心＞

楽さん家は、ほけも寝たきりも丸ごと受けとめて、支え合いながら暮らしていける、当たり前の日常生活を求め続けます。

楽さん家は、ここに集う方がそれぞれの楽しみ方を満喫でき、利用者と家族もちょっと楽ちゃんになれる...そんな場を提供いたします。

当たり前の日常生活を支援するために、スタッフは援助者としての専門技術の習得に努めます。

＜楽さん家の心意気＞

私たちは、今ここにある利用者の状態を常に尊重します。

私たちは、利用者が心を開き、感情を分かち合えるコミュニケーションのあり方を常に考え、実行します。

私たちは、利用者の自分らしく生きる力を支えるため、認知症の理解と、介護技術向上に努めます。

私たちは、利用者が穏やかに人生の終末期を迎えることができるよう、家族、医療機関、その他関係機関との連携を図ります。

私たちは、利用者の日々の生活がゆったりと円滑に進められるよう、スタッフ間の意志の疎通を図り、継続的なケアの提供に努めます。

【実施ユニットの概要】 (月 日現在)

ユニットの名称					
ユニットの定員	9 名				
ユニットの利用者数	9 名		男性	名	女性 9 名
	要介護 1	0	要介護 4	2	
	要介護 2	1	要介護 5	2	
	要介護 3	4	要支援 2	0	
年齢構成	平均 85.4 歳	最低 67 歳	最高 98 歳		

【自己評価の実施体制】

実施方法	スタッフミーティングにて
評価確定日	平成 21 年 月 日

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	〇印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1 (1)	<u>〇地域密着型サービスとしての理念</u> 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	〇玄関先に理念を掲示している。 〇スタッフで理念について話し、確認している。	〇
2 (2)	<u>〇理念の共有と日々の取り組み</u> 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	〇ミーティングで共有している。 〇勤務前にスタッフで話し合い、取り組んでいる。	〇
3	<u>〇運営理念の明示</u> 管理者は、職員に対し、事業所の運営理念を明確に示している。	〇ミーティングで話している。 〇管理者がスタッフに、フリー勤務の時に話して確認している。	〇
4	<u>〇運営者や管理者の取り組み</u> 運営者や管理者は、それぞれの権限や責任を踏まえて、サービスの質の向上に向け、職員全員と共に熱意をもって取り組んでいる。	〇月1回の全体ミーティングで話している。	〇
5	<u>〇家族や地域への理念の浸透</u> 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。	〇家族には、その時々で話したり、手紙で伝えている。 〇地域には、葉さん家だよりを配布している。 〇葉さん家訪問者には、パンフレットを配布している。	〇
2. 地域との支えあい			
6	<u>〇隣近所とのつきあい</u> 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ったりしてもらえるような日常的な付き合いができるよう努めている。	〇挨拶をしたり、葉さん家だよりを配布している。	〇
7 (3)	<u>〇地域とのつきあい</u> 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	〇厚葬りを行い、地域の方々との交流を図っている。 〇地域の保育所への訪問を行っている。	〇
8	<u>〇事業所の力を活かした地域貢献</u> 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	〇地域の方を対象に、認知症啓発普及事業を行った。	〇

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組んでいる項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
9	○<u>評価の意義の理解と活用</u> 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。 ○見直し、検討をスタッフで話し、行っている。 ○出来る所は行っているが、出来ない所は検討している。	○	
10 (5)	○<u>運営推進会議を活かした取り組み</u> 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。 ○2ヶ月に1回の運営推進会議で話した内容を反映している。 ○出てきた意見は、活かせる様に、取り組んでいる。	○	
11 (6)	○<u>市町との連携</u> 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。		○運営推進会議以外ないので、今後は相談、悩みを話していきたい。
12	○<u>権利擁護に関する制度の理解と活用</u> 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用するよう支援している。 ○事例がない。		○今後、勉強会をもっていきたい。
13	○<u>虐待の防止の徹底</u> 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。 ○スタッフで話し合いの場を持ち、防止に努めている。	○	
4. 理念を実践するための体制			
14	○<u>契約に関する説明と納得</u> 契約を結んだり解約したりする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。 ○施設長、管理者が窓口となり対応している。	○	
15	○<u>運営に関する利用者意見の反映</u> 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。 ○管理者、職員は、その都度話を聞くなどし、機会を持っている。	○	○外部者は、今後機会を持つていきたい。
16 (7)	○<u>家族等への報告</u> 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。 ○管理者が、パソコンで資料を打ち、知らせている。 ○家族へ手紙を送り近況を伝えている。 ○ブログでも、暮らしぶりを見れるようにしている。	○	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	〇印（取り組んでいる項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
17	<u>〇情報開示要求への対応</u> 利用者及び家族等からの情報開示の要求に応じている(開示情報の整理、開示の実務等)。	〇家族の要望、苦情を聞き、情報公開項目で開示している。	〇	〇今後、記事を残していきたい。
18 (8)	<u>〇運営に関する家族等意見の反映</u> 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	〇スタッフか、運営の苦情、相談を受けている。また、苦情用のファイルを作成しスタッフで話し合い改善に努めている。 〇窓口は、施設長。	〇	〇今後は、外部者（運営推進会議の委員の方）への機会も設けていきたい。
19	<u>〇運営に関する職員意見の反映</u> 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	〇全体ミーティング等で話す機会を設け、活かせるように努めている。	〇	
20 (9)	<u>〇柔軟な対応に向けた勤務調整</u> 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	〇勤務調整については、話し合い対応できている。	〇	
21 (10)	<u>〇職員の異動等による影響への配慮</u> 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	〇管理者に相談をし、利用者へのダメージを防げるよう考慮している。	〇	
5. 人材の育成と支援				
22 (11)	<u>〇職員を育てる取り組み</u> 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	〇五集会を設け、職員からの要望なども参考にし、研修内容を決め、行っている。	〇	
23	<u>〇職員配置への取り組み</u> 多様な資質(年代、性別、経験等)をもった職員を配置することにより、多様な利用者の暮らしに対応している。	〇若いスタッフから年配の方まで、幅広く配置をしている。	〇	
24 (12)	<u>〇同業者との交流を通じた向上</u> 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	〇学習会などを行っている。	〇	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○ <u>職員のストレス軽減に向けた取り組み</u> 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○管理者が、話を聞き、ストレス軽減につながるよう取り組んでいる。	○	
26	○ <u>向上心を持って働き続けるための取り組み</u> 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。	○スタッフに向上心を持って働けるよう努めている。	○	
27	○ <u>職員の業務に対する適切な評価</u> 運営者は、高い専門性やリスクを要求される管理者や職員の業務に対し、処遇等における適切な評価に努めている。	○資格や勤続年数等も含めて、評価されている。	○	
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
28	○ <u>初期に築く本人との信頼関係</u> 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	○アセスメントを取り、個人のペースに挙げ、改善していくようにしている。	○	
29	○ <u>初期に築く家族との信頼関係</u> 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	○家族に電話や手紙を送ったり、来訪時には、一緒に話しをし、積極的に機会をつくっている。	○	
30	○ <u>初期対応の見極めと支援</u> 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	○家族の相談に応じて、適切な対応ができるよう努めている。	○	
31 (13)	○ <u>馴染みながらのサービス利用</u> 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	○情報収集を行い、本人にあったペースで行えるよう、段階に応じて行っている。	○	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
32 (14)	○ <u>本人と共に過ごし支えあう関係</u> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	○家事（料理、洗濯物たたき、買い物等）や火付け等一緒に取り組んでいる。	○	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	〇印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
33	〇本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	〇家族との話し合いをしたり、食事会等を企画し、関係作りに努めている。	〇	
34	〇本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	〇スタッフの間で立ち、良い関係が築けるよう努めている。	〇	
35	〇馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	〇馴染みの人（知人、家族等）、場所（お店、理髪店等）との関係が途切れないよう、準備の配布等を行っている。	〇	
36	〇利用者同上の関係の支援 利用者同上の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	〇スタッフの間に入り、一緒に関わり合える場を作ったり、本人に合わせて個別の対応も行っている。	〇	
37	〇関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	〇家族の家に訪問したりしている。	〇	

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握

38 (15)	〇思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	〇個々に応じた要望を開き、対応している。 〇困難な場合は、家族からの情報等も参考にしながら個々に応じた対応をしている。	〇	
39	〇これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	〇家族などから今までの情報を収集し、その方に合った生活援助に努めている。	〇	
40	〇暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	〇1日の過ごし方、入居者に合った物を提供できる様、スタッフでその日の流れ、目標等を話し合い対応している。	〇	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	〇印（取り組んでいる項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
41 (16)	〇チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	〇	
42 (17)	〇現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	〇	
43	〇個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	〇	
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
44 (18)	〇事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	〇	
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
45	〇地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	〇	
46	〇事業所の地域への開放 事業所の機能を、利用者のケアに配慮しつつ地域に開放している（認知症の理解や関わり方についての相談対応・教室の開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受け入れ等）。	〇	
47	〇他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他の介護支援専門員やサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。		〇今後、訪問看護の利用の可能性もあり。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	○<u>地域包括支援センターとの協働</u> 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。		○今後あれば相談していきたい。
49 (19)	○<u>かかりつけ医の受診支援</u> 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	
50	○<u>認知症の専門医等の受診支援</u> 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	○	
51	○<u>看護職との協働</u> 利用者をよく知る看護職員（母体施設の看護師等）あるいは地域の看護職（かかりつけ医の看護職、保健センターの保険師等）と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	○	○地域包括と連携をとり、今後取り組んでいきたい。
52	○<u>早期退院に向けた医療機関との協働</u> 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	○	
53 (20)	○<u>重度化や終末期に向けた方針の共有</u> 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	○	
54	○<u>重度化や終末期に向けたチームでの支援</u> 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	
55	○<u>住み替え時の協働によるダメージの防止</u> 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	○	○今後あれば家族と事業所だけで話し合い、ダメージがない様にしていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	〇印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
56 (21)	<u>〇プライバシーの徹底</u> 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	〇	・入浴の面で出来ていない所もあるので、検討していきたい。
57	<u>〇利用者の希望の表出や自己決定の支援</u> 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	〇	
58	<u>〇“できる力”を大切に家事への支援</u> 家事(調理、配膳、掃除、洗濯、持ち物の整理や補充、日用品や好みの物などの買い物等)は、利用者の“できる力”を大切にしながら支援している。	〇	
59 (22)	<u>〇日々のその人らしい暮らし</u> 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	〇	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
60	<u>〇身だしなみやおしゃれの支援</u> その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	〇	
61 (23)	<u>〇食事を楽しむことのできる支援</u> 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	〇	
62	<u>〇本人の嗜好の支援</u> 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて、日常的に楽しめるよう支援している。	〇	
63	<u>〇気持ちのよい排泄の支援</u> 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	〇	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	〇印（取り組んでいる項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
64 (24)	〇入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。			〇入浴の嫌いな方が多く、スタッフが何とかして入ってもらう様にしている所があるがもう少し考えていきたい。
65	〇安眠休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり、眠れるよう支援している。	〇日中に活動(散歩など)してもらったり、要望を聞いている。	〇	
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
66 (25)	〇役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	〇畑作り、台拭き、散歩、買い物等、個々に合ったことをしてもらっている。	〇	
67	〇お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や状態に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	〇管理は厳しいが、家族に相談し、個人で少ない金額だが、持ってもらっている。	〇	
68 (26)	〇日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	〇散歩、買い物、畑へ行くなどしている。	〇	
69	〇普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	〇食事会、墓参り、展示会などの提供をしている。	〇	
70	〇電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	〇希望があれば対応している。	〇	
71	〇家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	〇いつでも訪問出来る様にし、話がゆっくりできる場所を提供している。	〇	
72	〇家族の付き添いへの支援 利用者や家族が家族の付き添いを希望したときは、居室への宿泊も含め適切に対応している。	〇事例がない。		希望がある時は、対応する方向性である。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	〇印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
73	○家族が参加しやすい行事の実践 年間の行事計画の中に、家族が参加しやすい行事を取り入れ、家族の参加を呼びかけている。	○花見、夏祭り、食卓会、クリスマス会等に呼び掛けをしている。	〇	
(4)安心と安全を支える支援				
74 (27)	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	○取り組んでいる。	〇	
75 (28)	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	○スタッフが鍵の役目になっている。 朝6時に鍵を開け、夜8時に施錠している。	〇	
76	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	○スタッフの連携、声掛けによって確認している。	〇	
77	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	○個々に応じて、どうすれば危険がないかスタッフで話し合い、対応している。	〇	
78 (29)	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	○事故防止の為にヒヤリ帖を作成している。 ○ミーティングなどで知識の勉強を行っている。	〇	
79 (30)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	○救命講習とミーティングで、看護師を中心に緊急時のマニュアルを参考にしながら話し合いをしている。	〇	
80	○再発防止への取り組み 緊急事態が発生した場合や、発生の可能性が見られた時には、事故報告書や”ヒヤリはっと報告書”等をまとめるとともに、発生防止のための改善策を講じている。	○ヒヤリ帖に記入し、ミーティング時に話し合い、事故のない様に取り組んでいる。	〇	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	〇印（取り組んでいる項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
81 (31)	〇災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人の協力を得られるよう働きかけている。	〇災害対策マニュアルを作成している。 〇避難訓練を行っている。	〇	〇事例がないが、地域と密な関係を作り、対応出来る様にしていきたい。
82	〇リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	〇リトワについて十分に家族に説明し、理解を得てもらうようにしている。	〇	
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
83	〇体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	〇マニュアルを作成しているし、医師とも連携を取っている。	〇	
84 (32)	〇服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。	〇処方せんを見て、変更等対応している。 〇処方せんのファイルを作り、確認を一目でできるようにしている。	〇	
85	〇便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	〇原因は、看護師を中心に理解している。 〇牛乳等・乳製品を使用している。	〇	〇ヤクルトの購入をしている。
86 (33)	〇口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。	〇食後の口腔ケア、義歯洗浄をしている。		〇難しい方もいるので時間をあけるなど工夫して取り組んでいる。
87 (34)	〇栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	〇カロリー、水分量、食事量のチェックをし、記入している。	〇	
88 (35)	〇感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	〇うがい、手洗い、消毒をして、感染予防をしている。 〇外来用の消毒液、マスを設置している。	〇	
89	〇食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	〇冷蔵庫の整理、熱湯消毒、手洗いやゴム手袋を使用している。	〇	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	〇印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
90	<u>〇安心して出入りできる玄関まわりの工夫</u> 利用者が家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	〇花を飾ってやさしい雰囲気を作っている。 〇バルコニーの装飾も作っている。	〇
91 (36)	<u>〇居心地のよい共用空間づくり</u> 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	〇カレンダー、花、行事の写真などを飾っている。 〇手作りのカレンダーには、季節に合った飾りを作って飾っている。	〇
92	<u>〇共用空間における一人ひとりの居場所づくり</u> 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	〇雑談コーナーや食堂でも机の配置などに気を配っている。	〇
93 (37)	<u>〇居心地よく過ごせる居室の配慮</u> 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	〇希望を聞きながら、意欲的によく過ごせる様にしている。	〇
94	<u>〇換気・空調の配慮</u> 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	〇フタットで対応している。	〇特に、においについては、消臭スプレー等活用していきたい。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
95	<u>〇身体機能を活かした安全な環境づくり</u> 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送ることができるように工夫している。	〇ベリアフリー、手すり等つけ対応している。	〇
96	<u>〇わかる力を活かした環境づくり</u> 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	〇自室の横に各前のプレートもっている。	〇
97	<u>〇建物の外周りや空間の活用</u> 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	〇建物の外周りの近くのスロー、花、火田等を活かしている。	〇

項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
V. サービスの成果に関する項目	
98 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	①ほぼ全ての利用者の ③利用者の1/3くらいの ②利用者の2/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
99 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	①毎日ある ③たまにある ②数日に1回程度ある ④ほとんどない
100 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	①ほぼ全ての利用者が ③利用者の1/3くらいが ②利用者の2/3くらいが ④ほとんどいない
101 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている。	①ほぼ全ての利用者が ③利用者の1/3くらいが ②利用者の2/3くらいが ④ほとんどいない
102 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	①ほぼ全ての利用者が ③利用者の1/3くらいが ②利用者の2/3くらいが ④ほとんどいない
103 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	①ほぼ全ての利用者が ③利用者の1/3くらいが ②利用者の2/3くらいが ④ほとんどいない
104 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。	①ほぼ全ての利用者が ③利用者の1/3くらいが ②利用者の2/3くらいが ④ほとんどいない
105 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	①ほぼ全ての家族等と ③家族の1/3くらいと ②家族の2/3くらいと ④ほとんどできていない
106 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	①ほぼ毎日のように ③たまに ②数日に1回程度 ④ほとんどない
107 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	①大いに増えている ③あまり増えていない ②少しずつ増えている ④全くいない
108 職員は、生き活きと働いている。	①ほぼ全ての職員が ③職員の1/3くらいが ②職員の2/3くらいが ④ほとんどいない
109 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	①ほぼ全ての利用者が ③利用者の1/3くらいが ②利用者の2/3くらいが ④ほとんどいない
110 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	①ほぼ全ての家族等が ③家族等の1/3くらいが ②家族等の2/3くらいが ④ほとんどできていない